



開会式



結花乃さんのステージ

須マイル

元気な須津が戻って来ました



ビンゴ大会も...

須津地区まちづくり協議会 広報

令和4年 12/5 No.17



大人気のミニSL



ゲームコーナーにもたのむ子どもたち

来場者による投票

須津ふるさと秋まつりどうだったかな？



235



115



51

題字・デザイン

伊藤 友香さん (大学3年生：中里3)

秋の訪れへのワクワク感を赤やオレンジなど秋らしい色合いで表現しました。

日々寒くなりつつありますが、全体的に暖色で仕上げたこちらのデザインで、皆様が少しでも暖かさを感じていただければ幸いです。

第50回須津地区文化祭「みんなの作品展」

10月23日(日)

文化部 部長 木下直子(川尻2)

気持ちの良い秋晴れの中、3年ぶりの文化祭の開催となりました。感染症対策で展示だけでしたが、予想を上回る多くの来場者で大変賑わいました。また、喜びの声もたくさんいただきました。来年は、コロナがどうなるかわかりませんが、このような展示を中心とした開催もいいものだと思います。

来場者数
小学校体育館 379名
まちづくりセンター 416名

須津まちづくりセンターでは



入口ではきちんと感染症対策を



須津中学校 生徒作品は
力作ばかり



須津幼稚園 年長児のかわいい作品



須津小学校体育館は、元気いっぱい楽しさいっぱいの作品があふれ、ステキな空間になりました



富士市立高校ビジネス部のお店は大盛況

須津小学校 児童の作品



須津児童クラブの作品も



子育ては地域で!

10月15日(土) **「わらべ歌であそびましょ!」**

主催:子育て・青少年育成部門

指導講師 畔高京子さん(岩本在住)
荒金いく江さん(神谷緑)

わらべ歌にちなんだ数々の遊びと、お話の会「トトロ」による大型絵本の読み聞かせを親子で楽しみました。



ヨイサッサ人形おもしろかったね わらべ歌あそびの畔高先生



12月17日(土) 10時から
第6回まちの小さな音楽会「Xmasコンサート」を開催します

須津川溪谷がピカピカになりました

11月5日(日) **須津川クリーン作戦**



地区住民200名が町内別の担当場所に分かれて須津川溪谷沿いの清掃活動を行いました。秋晴れの日差しの中、気持ちの良い汗を流しました。



須津中学校生徒ボランティアも



水防団は須津川に入って



10月2日(日)には、地区役員60名が「桜ともみじの下草刈り」を行いました。

須津中学校女子 市長杯受賞おめでとう!

令和4年度 富士市中学校総合体育大会 須津中学校女子が初の総合優勝



須津中学校女子が、令和4年度富士市中学校総合体育大会(中体連)において、初の総合優勝。11月14日に小長井富士市長から市長杯が授与されました。

バレーボールと卓球の2種目を制したほか、剣道と駅伝で2位、バスケットボールで3位に入るなど素晴らしい活躍でした。

また、男子も総合3位の好成績でした。須津中生徒の活躍は、須津地区にとっても大変喜ばしいことです。

須津小学校 創立150周年おめでとうございます



須津小学校創立150周年記念に寄せて

校長 望月秀一

11月11日、創立150周年記念に併せて、子どもたちの笑顔あふれる『すどっ子カーニバル』を開催し、給食はお赤飯を食べてお祝いしました。



式典では、谷口PTA会長が実行委員長として、中端まちづくり協議会長が地域を代表として、子どもたちの心を揺さぶる温かなご挨拶をいただきました。また、全校児童で歌った『校歌』も校舎内外に響き渡り、良い節目になったかと思います。

これからも、保護者、地域の皆様とともに、伝統ある須津小学校の子こどもたちを育てて参りたいと思います。よろしくお祈りします。

須津地区まちづくり協議会
Instagram、Twitterの公式アカウントを
開設しました



Twitter



Instagram

☆スマホの読み取り機能で簡単にアクセスできます

畔柳治年さん(神谷二)の育てた鮮やかな菊が、まちづくりセンターに飾られています。是非ご覧ください。



秋だより

夢を創る

文楽 人形遣い
桐竹勤次郎さん



撮影：桂 秀也

本名は大槻祐次さん。日本の代表的な古典芸能の一つである「文楽」の人形遣いのホープである。大槻さんは、昭和五十八年生まれ。須津小、須津中の卒業生である。いったい、大槻さんはどのようなきっかけで「文楽」の世界に入ったのであろうか。日大三島高校では演劇部に所属し、舞台俳優をめざし日本大学芸術学部演劇学科に進学している。

直接のきっかけは、大学の必修授業で初めて「文楽」と出会い感動を受け、特に現在の師匠である人間国宝・勤十郎さんの、生き活きとした表現力に衝撃を受け弟子入りを決意したそう。なんと大学3年の時、弟子入りを許されたという。

「足遣い十年、左遣い十五年」といわれる厳しい修行の道を歩み、若手技芸員のホープとまで称されている大槻さん。多忙の中、新幹線からUCCを眺めては、また、東名高速道路の車中から須津中を眺めては、ふるさと須津を思うことがあるという。

ぜひいつか桐竹勤次郎こと大槻祐次さんの生の舞台を観てみたいと思っている。そして、いつか地域の人々の前で公演が実現できたらと願っている。

須津のれきし探訪

(シリーズ第17回)

須津と江戸 I 須津地区の『殿さま』⑤ 中里村の殿さま② 戸田氏①

杉本 寛郎 (富士山かぐや姫ミュージアム芸員)

元禄中里村の殿さまが旗本曾我氏から幕府直轄領に変わってから五年後、宝永七年(一七一〇)七月二十五日、旗本戸田氏が中里村の殿さまになりました。戸田氏は戦国時代のはじめのころ、渥美半島のあたりを本拠地とした三河(愛知県東部)の有力武士で、同じく三河の松平氏(後の徳川氏)と並び立つ勢力でした。徳川家康が今川氏から独立したころから、戸田氏は家康に従うようになり、三河譜代の家臣として数々の武功を上げました。戸田尊次が当主のとき、関ヶ原の合戦で功績を上げ、田原城一万石の大名となりました。尊次の六男・忠高は三代將軍家光の三男綱重の教育係として仕え、綱重が甲府十五万石の大名となると甲府城代(じょうだい)を勤め、甲斐(山梨県)に二五七〇石の知行地(ちぎょうち)を与えられました。綱重は家光から甲斐を与えられましたが、現地へ赴くことはなく、江戸で暮らしていました。そして甲府城には綱重の家臣となった旗本が甲府城代として詰め、管理していました。忠高の子・忠春も甲府城代を勤めていましたが、綱重の子・綱豊が五代將軍綱吉の後継者となり、江戸城に入ると、忠春も江戸に付き従い、幕臣になりました。そして宝永七年に甲斐から領地替えとなり、中里村の殿さまとなりました。

文楽ってなんだろう



人形浄瑠璃の別名。

登場人物のセリフを語る「太夫」
人物の感情や情景を表現する「三味線弾き」
舞台上で人形を操る「人形遣い」この三業が合わさった芸能が文楽。すなわち文楽は語り・三味線・人形三位一体の芸術。

編集後記

「さかみち」

根方街道沿いに住む年配の方。
「最近杖が無いと何処へも出かけられず辛い」と話していた。

「東光寺の前にある薬屋へも、杖が無ければ行けない。嫌になる。でもね、かえりは下り坂だから、杖が無くても歩けるから本当に楽だ」笑いながら言った。

坂道？
下り坂！



(蠅滑り)

1985年4月～1991年3月生まれの
(今年度37歳～32歳の)
須津小学校卒業生へ!!

タイムカプセルの
中身配付します!!

お問合せ sudo.taimukapuseru125@gmail.com



右のQRコードを読み込むと、富士市のホームページで、須マイルの電子版を見ることができます。

